

# 記録と記憶、記憶の共同体へ —カタストロフィー／トラウマをめぐる視聴覚表現の可能性—

日時：2015年7月21日（火） 17：00～  
場所：立命館大学 学而館 2F 第3研究室

2011年3月の東日本大震災の映像記録、とりわけ津unamiと東京電力福島第一発電所の爆発事故にかかわる記録は、直接の当事者や関係者にとどまらず、広く現代世界の「グローバルな文化的記憶」に、カタストロフィーの表象を強烈に刻み込んだ。本ワークショップでは、イダルゴ州立自治大学インスティート・デ・アルテス視覚芸術領域、主任研究教授であり、国立芸術院・造形芸術研究記録情報センターで研究発表を行う横井川美貴博士を招聘し、カタストロフィーやトラウマの「記憶」を同時代的に分有する、また時空間を超えて継承していくために視聴覚表現が人びとの共感や想像力に働きかける力の功罪を問う。カタストロフィーやトラウマの記録と記憶の可能な相互変換とその継承をになう共同性を切り開くにあたりアートはどのように機能しているのか。フクシマ、ヒロシマ、メキシコのカタストロフィーの記憶を架橋しつつ考えてみたい。

## <プログラム>

- 17：00～18：30 講演：横井川美貴（メキシコ・イダルゴ州立自治大学）  
Universidad Autónoma del Estado de Hidalgo, Instituto de Artes
- 18：45～19：45 ラウンド・テーブル
- 19：45～20：00 質疑応答

共催：立命館大学生存研究センター（問い合わせ先）

電話：075-465-8475 FAX：075-465-8245 E-mail: [ars-vive@st.ritsumei.ac.jp](mailto:ars-vive@st.ritsumei.ac.jp)

駐車スペースがありませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

